

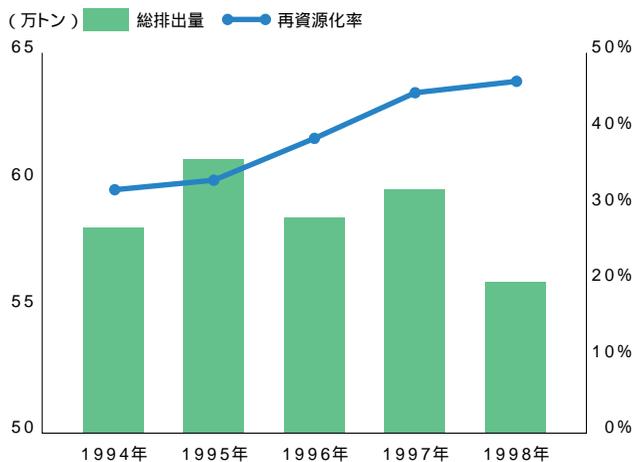
廃棄物削減・再資源化

リサイクルからリデュース(発生抑制)へと転換しています。

廃棄物削減・再資源化の取り組み

TDKでは、2000年度までに1994年度比で廃棄物処理業者委託量を絶対量で60%削減、廃棄物の再資源化率を50%増加することを目標に取り組んでいます。各工場には省資源化推進機能を設置し、項目別廃棄物発生量・処理費用の把握・対策から、廃棄物処理法の改正によるマニフェスト(産業廃棄物管理表)管理、およびリサイクル・リユース・リデュースの3Rをふまえ、資源の再利用・有効活用、廃棄物の減量化を推進しています。また2000年4月より拡大施行される「容器包装リサイクル法」に対応すべく、準備を進めています。

総排出量と再資源化率の推移 (TDK本体および国内連結18社)



これまでの活動状況

1998年度は、全工場のISO14001認証取得と合わせ、廃棄物名称・表示方法の標準化を進め、全工場での統一のラベル・ステッカーを廃棄物の置き場所、くず入れ等の要所に表示し、従業員一人ひとりが分類に基づいた取り扱いができるように整備しました。また廃棄物置き場も整理整頓を進め、標準化を図っています。

廃棄物発生量・処理費用についての情報はデータベース化を行い、迅速な集計と従業員の閲覧・状況把握ができる体制が整っています。

処理委託量と再資源化率

省資源化推進のため、2000年度に向けて廃棄物処理業者委託量と再資源化率の目標を設定し、達成に努めています。

目標値

1. 廃棄物削減

		1999年度	2000年度
本体	1994年度比	50%削減	60%削減
国内連結会社	1997年度比	20%削減	30%削減

2. 廃棄物再資源化

		1999年度	2000年度
本体	1994年度比	40%増加	50%増加
国内連結会社	1997年度比	17%増加	25%増加

(注)TDKでは、本体工場と国内連結会社の目標を別個に設定しています。関連会社においても独自の努力を進め、生産プロセスの改善や徹底した分別処理に取り組んでいます。

ゼロエミッションへの取り組み

1999年度より「ゼロエミッションへの挑戦」を掲げ、現在は準備期間として基本推進計画を策定中です。最終目標は2005年度とし、TDKの四大廃棄物である汚泥・廃油・



汚泥減容化のための脱水機(稲倉工場)

廃酸・廃プラスチックの再利用、廃棄物処理技術の蓄積、製造方法の改善、工程内リサイクルによる廃棄物削減などを展開していきます。また、廃棄物そのものについては減量化・社外再資源化を進めることも基本的な考えとしています。

再資源化対応例

TDK独自の発想と技術で、テープの製造工程や廃棄物等から再資源化を進めています。

有機溶剤を含んだ空気を排出しないように、活性炭に吸着させたのち蒸留を経て再利用しています。

テープを加熱して固め、コンクリートを流し込む型枠パネルとして再利用しています。

乾電池の生成材料を分別し、酸化亜鉛、酸化マンガンなどのフェライト原料に変換しています。

ダイオキシン対策

廃棄物処理法の許可対象となる焼却炉を含め、全工場で7基稼働中であり、法の基準に従って運用していますが、順次廃止することで検討しています。また、ダイオキシン発生を防止するため、焼却廃棄物の分別管理と削減を徹底しています。



有機溶剤のリサイクルプラント(三隈川工場)



型枠パネル(左)と材料の廃磁気テープ(右)



フェライト偏向ヨークコア(右端)